

東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター

潮田ヒューマニティーズイニシアティブ「公募研究 A」成果報告書

研究課題（和文）： 朝鮮本の異版比較のためのシステム開発に関する基礎的研究

研究課題（英文）： Fundamental Research for Development of System to Comparison of Different Editions of Korean Books

申請者名・所属先： 澁谷秋(元・人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻韓国朝鮮言語社会講座 現・附属図書館アジア研究図書館寄付研究部門)

海外招聘者名： なし

## 1. 研究の目的

AI を用いた画像処理や比較に関する研究は近年盛んにおこなわれているが、朝鮮本に関する事項は後れを取っていると言わざるを得ない。朝鮮本の異版比較を行うための基礎的研究として朝鮮本が抱える難点を整理し AI で画像処理を行うにあたって注目すべき点について考える。

## 2. 研究開始当初の背景

朝鮮本は和本や唐本とは異なり、現伝する刊本が大変少ない。それに加え、商業出版がほとんどされず、刊記が付されない点が特徴である。このような状況下で刊本の系統関係を考察したり、刊行地や刊行年代を推測することは大変難しく、職人技に頼るほかないともいえる状況である。

この状況を打開するために AI を用いた画像処理により画像比較を行い、異版比較を行えば、仮に書誌情報を知りたい対象物が端本であったとしても、本の書誌情報を簡便に知りえる。また、刊本比較だけでなく絵画の比較や落款、サイン等の画像処理および比較といった分野にまで広がる可能性を含んでいる。

## 3. 研究の方法

朝鮮本を取り巻く環境を調査し、画像比較をするための前提としてどのような点に注意すべきか、あるいはどのような点に注目して比較を行えばいいのかについて取りまとめる。また、画像処理や朝鮮語の OCR 技術の現状を把握し、今後の展開を検討する。

## 4. 研究成果

まず、和本や唐本と朝鮮本がどのように異なるのかについて提示すべく 2024 年 2 月 15 日、HMC オープンセミナー「朝鮮本と画像処理の現在地」(オンライン開催)を実施した。朝鮮本が持つ特徴と、朝鮮本を取り巻く環境について整理をし、そのうち、異版比較を行う際に基準となりうるものを抽出した(「朝鮮本を取り巻く環境について」澁谷秋)。また、OCR 技術を適応する際の朝鮮本の難しさについてもまとめた(「画像としてのテキストの扱いかた」塚越柚季)。



本研究は申請者の職位変更に伴い研究期間が当初の予定から半分に短縮されたため、研究の進展および成果の発表は不十分な状態にある。現時点で1度のセミナーしか開催していない。

2024年度前期にもう一度オープンセミナーが予定されており、韓国語 OCR 技術の現状等について報告する予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔図書〕

〔雑誌論文〕

〔学会発表〕

澁谷秋「朝鮮本を取り巻く環境について」東京大学ヒューマニティーズセンター第103回オープンセミナー「朝鮮本と画像処理の現在地」(オンライン開催)2024年2月15日

〔その他〕